

# 老舗・着物屋が手がける新しい「晴れの日」



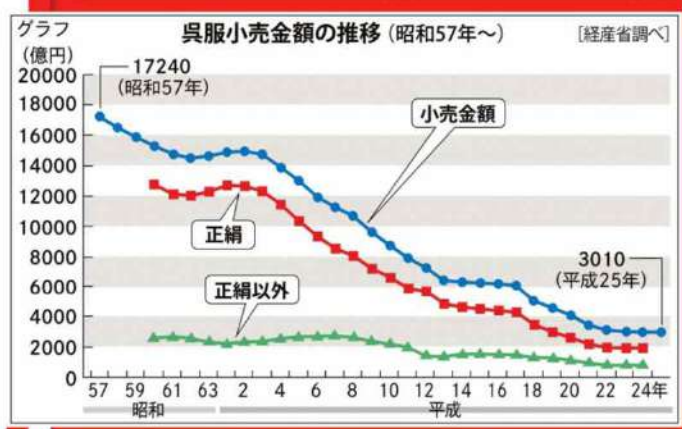
新型コロナウイルスの影響で、自治体の成人式が従来通り行われるのが不透明な状況だ。そんな中、身内だけで行う「家族のための成人式」が注目を集める。成人式の新たな流れを取材した。

# 家族のための成人式



①能舞台の橋がかりで家族に振袖を披露する櫻井愛子さん

- ### 当日の流れ
- 1 入場** 最前列に家族が着席。振袖(紋付袴)を着た娘(息子)が能舞台の橋がかりに入場
  - 2 お披露目** 着物姿の娘(息子)と対面。仕上げに母が帯飾り紐を結ぶ
  - 3 写真撮影** 能舞台上での記念撮影。娘(息子)一人の撮影と家族撮影
  - 4 証書朗読** 両親が20年間の思い出を綴った「巣立ち証書」を司会が朗読
  - 5 感謝状朗読** 娘(息子)が家族への「感謝状」を朗読
  - 6 贈呈式** 「巣立ち証書」と「感謝状」の交換、記念品等の贈呈
  - 7 退場** 家族揃って退場。スタッフ全員で拍手で見送る
- ※問い合わせは本社「成人式サロンKIRARA」  
(<https://seijinshikisalon-kirara.com/>)へ



■家族の絆強める成人式を昨年8月のある土曜日、GINZA SIX(東京都・銀座)の『観世能楽堂』で「家族のための成人式」が行われた。参加したのは7組。式は、1組約40分間で終わった。振り袖を着た娘が舞台に入場し、晴れ姿をお披露目。撮影が終わると、親子から「巣立ち証書」と、子から親へ「感謝状」を読み上げた

■家族の絆強める成人式を昨年8月のある土曜日、GINZA SIX(東京都・銀座)の『観世能楽堂』で「家族のための成人式」が行われた。参加したのは7組。式は、1組約40分間で終わった。振り袖を着た娘が舞台に入場し、晴れ姿をお披露目。撮影が終わると、親子から「巣立ち証書」と、子から親へ「感謝状」を読み上げた

■家族の絆強める成人式を昨年8月のある土曜日、GINZA SIX(東京都・銀座)の『観世能楽堂』で「家族のための成人式」が行われた。参加したのは7組。式は、1組約40分間で終わった。振り袖を着た娘が舞台に入場し、晴れ姿をお披露目。撮影が終わると、親子から「巣立ち証書」と、子から親へ「感謝状」を読み上げた

■家族の絆強める成人式を昨年8月のある土曜日、GINZA SIX(東京都・銀座)の『観世能楽堂』で「家族のための成人式」が行われた。参加したのは7組。式は、1組約40分間で終わった。振り袖を着た娘が舞台に入場し、晴れ姿をお披露目。撮影が終わると、親子から「巣立ち証書」と、子から親へ「感謝状」を読み上げた

■家族の絆強める成人式を昨年8月のある土曜日、GINZA SIX(東京都・銀座)の『観世能楽堂』で「家族のための成人式」が行われた。参加したのは7組。式は、1組約40分間で終わった。振り袖を着た娘が舞台に入場し、晴れ姿をお披露目。撮影が終わると、親子から「巣立ち証書」と、子から親へ「感謝状」を読み上げた

野口道男さん(56)と妻の千佳さん(同)は、双子のわが子に式をプレゼントした。一双子の子育ては2歳半頃まで毎日戦争のようでした。と当時を振り返りつつ、「娘たちが輝いて見えた」と話した。姉の紗那さん(20)と妹の伶那さん(同)は、「着物を着た写真を撮影する『前撮り』だけで済ませる選択もあった。しかし式であれば家族やお世話になった方々にも晴れ姿を見てもらえる」と感謝の気持ちを書いた。写真②



### 中西さんが解説する「成人式のルーツ」

成人式のルーツは、戦後まもない1946(昭和21)年に埼玉県北足立郡飯町(現、飯市)で行われた『青年祭』といわれる。戦争で犠牲になった若者を慰め、次代を担う若者たちを励ますために開催された。その2年後、「成人の日」は祝日に。背景には、若者への謝罪と鎮魂、平和への誓いがあった。戦後70年超の現在、若者が戦争で命を落とすことのない平和な社会が築かれた。一方で、平和だからこそかつての理念は失われつつあり、現代の成人式は違う意味を持ってしまったように見える。新成人をいかに祝福し社会に送り出すか、成人式のあり方が問われている。

## 親から子へ「巣立ち証書」 子から親へ「感謝状」

■着物市場を活性化したい。着物市場は、1980年代の1兆8000億円をピークに、現在は2700億円と6分の1にまで縮小傾向にある。そんななか、成人式などの催事は年間売り上げに左右する大イベントだが、振り袖を購入する人は減少傾向にあるという。

以前は、振り袖を購入するのが一般的であり、着物代と写真代をあわせて約50万円の売り上げが見込めた。しかし、現在のスタンダードは、レンタル着物。撮影代と合わせても25万円程度と半分程度の売り上げにとどまっている。「一方で、振り袖はレンタルでも成人式は盛大に行きたいと考える新成人は少なくありません。毎年約120万人の新成人が誕生し、全体の8割は成人式に参加しています」と中西さん。

いで騒動となるケースも。「コロナ禍を克服するためのチャンスと捉え、ただ騒ぐだけの儀式と化してしまっただけの成人式を、令和の時代にふさわしい意義ある成人式にしたい」と中西さん。

■日本の新しい文化へ イベント会場や結婚式場では、新型コロナウイルスによるキャンセルや延期に伴い、新しい施設利用のあり方を模索している。「家族のための成人式」で、会場利用が増えれば、施設側にとってもありがたい話なのだ。

「20年後は、『家族のための成人式』を年間30万組まで拡大したい」と中西さん。

「結婚」と準式がセットであるように、「20歳になったら家族に感謝の意を伝えるセレモニーを開く」のが日本の文化として定着するよう活動の幅を広げていく」と今後の展望を語った。